小さな耳だけど安心した

小　四

ぼくは、生まれつき左の耳が小さくなっています。ぼくは、みんなに見られたくないので、かみの毛でかくしています。

だけど、ようち園のときに、耳を見られてみんなから「へんなの」「なにその耳」と言われていました。

ぼくは、みんなから「へんなの」と言われるまで、みんなとちがうとはわかっていたけど、そんなにかわらないと思っていました。

小学校に入学して、みんなとなかよくなったら、ぼくは、「この耳へん？」と聞いていました。そうしたらみんな、「へんじゃないよ。」と言っていました。気を使ってくれているのかなと思ったり、前はまだ小さかったから、気を使えなくて言っていたのかと思ったりもしました。正直に言うとどちらかわからなかったです。すごく不安でした。だからずっとお母さんや、お父さんに、「この耳へんだよね。」と聞いていました。

だけど、家族はずっと「へんじゃないよ。」とみんなと同じことを言っていたので、気を使って言っているのではなく、本当におかしいことではないのだと気が

付きました。しかも、ぼくの耳は、六千人に一人ぐらいの耳ということを、お母さんから聞きました。それから、ぼくは、へんなのではなくて、とてもすごい、自分だけの物なのだと知りました。そして少しうれしくなりました。

ぼくは、五年生になったら手じゅつをするので、もっと気にすることが少なくなると思います。

ぼくが大人になって、子どもがぼくみたいな耳だったら、「へんじゃないよ。自分だってそういう耳だったけど、人はそれぞれみんなちがうからだいじょうぶだよ。」と教えてあげて、ぼくみたいに安心させたいです。これからも、人はそれぞれちがうということを大切にしていきたいと思います。